

ひだまりだ

2024Vol. 15

秋田大学教育文化学部 後援会情報誌

令和6年3月1日 第15号

愛称「ひだまり」は、教育文化学部が「秋田の文化の温かさ」の集まる日溜まりのような場所となり、皆様にその暖かさが届きますようにという願いを込めて名付けられました。

もくじ

多様な人材を求める地域文化学科	1
後援会長あいさつ、就職・進学が決まった学生からメッセージ	2・3
教育文化学部の就職支援と学生の就職状況について（キャリア委員長）、就職内定状況	4
就職情報室を利用して	5
教務学生委員会からのお願いとお知らせ（教務学生委員長）／ 学部長あいさつ／大学学部関係行事予定	6

多様な人材を求める地域文化学科

秋田大学教育文化学部地域文化学科は2014年に地域社会コースと人間文化コースの2コースで創設されました。2018年から地域社会、国際文化、心理実践の3コース制になり、現在に至ります。学生は2年進級時に志望コースを選びます。コース定員はないため、全員が希望のコースで学べます。所属コースで専門性を深め卒業研究へ高めるとともに、専門以外の科目も豊富に履修できます。多彩な専門領域の中で自律的に自身の学びを組み立てられることが、本学科の特長です。加えて、秋田学基礎、地域連携ゼミをはじめとするコアカリキュラムを必修とし、1年次から3年次まで一貫して地域の課題発見・分析・解決方法を実践的に学びます。

地元秋田に根ざし、専門性と多様性を両立した教育を目指します。本学科が「求める人物像」は、①地域社会の将来を展望し、活性化に貢献する人、②地域の抱える問題に対して総合的な成果を踏まえて分析し、実践的に応えていく人、③地域の特性・伝統を理解しながら地域文化の継承・発展に取り組む

人、④地域情報を世界に発信し、世界との交流を促進する人、です（全文は本学科アドミッション・ポリシー参照）。地域の発展に熱意ある受験生を広く募るため、入学試験は総合型選抜、学校推薦型選抜、前期日程、後期日程と年4回実施しています。特に総合型選抜は近年募集人員を拡大し、「地域連携あるいは国際交流を通じた地域への貢献に強い関心を持ち、行動している人」を求め、面接とは別に貢献実績のプレゼンテーションを課します。一方で、大学入学共通テストは課しません。

幸いなことに、本学科の理念に共感し県内外から志願者が集まってくれます。令和5年5月現在、学科在籍の学生は4学年で416名、うち280名が県内出身、143名が県外（外国含む）出身です。秋田大学を取り巻く環境は、常に変化し厳しさも増します。それでも、多彩な希望を抱いて集ってくれた学生たちとともに、今後も発展していける学科でありたいです。

地域文化学科主任 中野 良樹



地域社会コース（益満ゼミ）
酒造りを通じた地域活性化について学ぶ。



国際文化コース（在来生研修）
地下アイドル入門講座と
古地図を用いた街歩き。



心理実践コース（卒論中間発表会）
コースの教員と学生が全員参加し
て4年生のポスター発表を聞く。

Be The One

教育文化学部後援会 会長 小林 弥

2024年、昇竜の年が始まりました。教職員、会員の皆様におかれましては、日頃から後援会活動にご理解、ご協力を賜り、感謝至極に存じます。後援会理事会、総代会は対面での開催が可能となり、コロナ禍で一時停滞していた活動を、時代の変化に合わせて、再開できていることは大きな喜びであります。また、卒業生の就職内定は上々であると伺っております。就職情報室の設置を支援している後援会として、とても喜ばしいことと思っております。

世の中が移り変わるスピードは、ますます加速度を増しています。特にコロナ禍では、世界は共通の

目的を達成するために、人類の英知を結集、協働して、困難を乗り越えてきました。以前と全く変わらないレベル、とまでは回復していないものの、過去に疫病が蔓延した歴史から学び、研究を続け、対策を講じてきたからこそ、今の生活があるのだと思います。

この春に卒業される皆様方も、分野は違えど、連綿と続く「学び」の歴史を紡いでいく一人であります。先人の経験、知識、志を受け継ぎつつ、轍を見極めて、歩みを勧めていくことを願います。今後、一研究者としての矜持をもち、研鑽を重ねて更に「学」を修め、深めていき、次代へと引き継いでいく大人として、更に世界を広げていくことを祈念いたします。

就職・進学が決まった学生からメッセージ

令和6年3月卒業の学生4名からメッセージをいただきました。保護者の方、学生のみなさんに参考になる内容です。

教員採用試験を受けた話

教育文化学部 学校教育課程

理数教育コース 今井 歩

私は埼玉県・高校数学の教採（教員採用試験）に合格し、4月からは私の地元である埼玉県で教員として働きます。高校生の頃、教員は、授業以外では研究室でコーヒーをすすっている楽な仕事だと思っていたのに、秋田大学で教職を学ぶにつれてこの道の恐ろしさに気づきました。しかし不思議なことに、教員になった自分を思い描くたびに「高校数学の教員になりたい!」という思いが強くなるではありませんか。やはり教職の魅力というのは特別なものなのかもしれませんね。

そんな教職を目指し、教採を受ける方々に向けてアドバイスをしたいところですが、実は、静岡県の高校数学を併願して1次試験に落ちてしまいました。原因不明の不合格です。思い当たる節と言えば、試験前日に沼津を観光していたことくらいです。逆に埼玉県は1次の段階で絶対落ちたと思いましたが、なぜか受かりました。そんな私の話でよければ続きも読んでみてください。

私が考える教採に受かるために必要だったと思うことは、「素直でいること」だと思います。特に面接の台本を作ったり練習をしたりするときに感じたことですが、やればやるほど自分がどんな思いで教職を志しているのか、自分がどんな人間なのかなどを思い知ることになります。そんな時に無理に取り繕って当たり障りのない答えを考えるのではなく、自分に素直になり、ありのままの自分の良さを全力でアピールするこ

とが大切だと思いました。もちろんテンプレのような解答を把握しておくことも大切ですが、周りとの差をつけなければ合格できないこともまた事実だと思います。あとは勉強ですが、これについては言うまでもないですね。周りとの協力して頑張ってください。

最後に、教採に合格できたのは私ひとりの力ではありません。自主ゼミの担当の先生、就職情報室の職員の方々、ともに勉強してくれた仲間など、たくさんの方々の支えがあつての合格であると断言できます。本当にありがとうございました。

公務員試験を振り返って

教育文化学部 地域文化学科

国際文化コース 草皆 璃空

私は大学1年生の春から公務員を志望し、今の学科に入学しました。公務員試験の勉強は部活が続いていたこともあり、少し遅めの3年生の11月頃から本格的に始めました。そして4年生の夏に第1志望の省庁から内定を頂くことができました。公務員試験は大きく分けて筆記と面接の試験があり、筆記に合格できないと面接は受けられないという仕組みになっています。そのため、まずは筆記試験の科目の勉強に力を入れて取り組みました。筆記の勉強をしていく中で、2年生までに大学の単位をできるだけ多く取っていたので3年生であまり授業を取らなくてよくなり、公務員の勉強に集中することができたのは良かった点でした。また、周りにも公務員を目指している人が多かったので問題を出し合ったり、教え合ったりして楽しみながら

勉強できたのも良かった点でした。

一方で、公務員の面接試験では情報がかなり重要になります。どのような質問が飛んでくるのかを予め想定して対策を取ることが合格には必須だと思います。しかし、自分は公務員講座を取らず独学でやっていたので、他の受験者と比べると圧倒的に情報量が少ない状況でした。そんな中で、私に力を貸してくださったのが就職情報室と大学の学生支援・就職課でした。就職情報室には過去の先輩が残してくれた実際の試験の記録集があり、たくさんの質の高い情報を集めることができました。また、3年生の時に、内定を貰った先輩から直接話を聞くイベントにも参加し、試験についてより理解を深めモチベーションを高めることができました。学生支援・就職課では実際の流れに沿った面接練習を何度もして頂きました。様々な職員の方からアドバイスを頂き練習を重ねたことで、本番では自信をもって臨むことができました。

私の就職活動と一緒に勉強した仲間とこの2つの機関の職員の方々がいなければ、成功していなかったと思います。勉強面や情報面だけでなく、様々な面から支えて頂きました。この場を借りて感謝申し上げます。在学生の皆さんの就職活動を心から応援しています。

就職活動を振り返って

教育文化学部 地域文化学科

国際文化コース 安田 汐里

私は、昨年6月に第一志望の企業から内定をいただきました。3年の夏から合同説明会やインターンシップに参加して、秋冬には志望業界を絞り、昨年2月から選考の経験を積んできました。これまでの就職活動を振り返って、今後就職活動に取り組む在校生の皆さんにアドバイスしたいことが3つあります。

1つ目は、学校を頼ることです。就職活動は自分1人の戦いだと思わず、行き詰まったら学校へ相談しに行くことが大切だと考えます。私はESや面接の準備にあたって、就職情報室、就職推進担当の皆さんに大変お世話になりました。第三者に客観的な意見をいただくことで、改善すべき点が明確になります。

2つ目は、視野を広く持ち、しっかりと他社比較しておくことです。志望する業界の競合他社と比較していくことで、その企業ならではの特徴がわかってくるはずです。実際に、私は合同説明会で気になった企業から競合他社を調べ、その後インターンシップに参加した先が第一志望になりました。また、他社比較を行うことで、面接でよく聞かれる「なぜ同業他社ではなく当社なのですか」という質問にも対応できると思います。

そして3つ目は、息抜きを大事にすることです。就職活動中、気力はもちろんのこと、県外への就職を考える人は体力の消耗も大きいはずです。私のおすすめは、丸1日就活のことを考えず、好きなことをしてリ

フレッシュする日を作ることです。一人暮らしをしている人は、家族に電話をしてみるのもいいと思います。そして、頑張りどきだからこそ、しっかり睡眠をとる、栄養のあるものを食べるなど、健康的な生活を意識することがそのまま心身の調子を整えることにつながると思います。

ここまで書きましたが、私もこれまで何度も何度も不採用のメールをいただきました。不採用は、上手くいくまでの通過点にすぎません。ESや面接は経験を積むごとにどんどん上達していくので、失敗は成功のもとだと思うことをおすすめします。在学生の皆さんが悔いのない就職活動ができるよう、心から応援しています。

更なる高みを目指して

教育文化学部 学校教育課程

英語教育コース 佐藤 愛海

私は、地元秋田県の教員採用試験を受験し、高等学校の英語教員として内定をいただきました。合格までの道のりは大変険しく、何度もあきらめかけましたが、たくさんの方々に支えられたおかげで乗り越えることができました。本当にありがとうございます。

教員になりたいという夢は幼少期から抱いておりましたが、高校の恩師の背中を見て、高校の英語教員になることを決意し、本学の英語教育コースに進学しました。本学での4年間の講義、実習、ボランティア等を通して教員としての資質や能力、また責任感を培うことができました。特に印象に残っているのは、3年次での主免Ⅱ期の実習です。3週間という短い期間を母校の中学校で過ごし、授業を通して子どもたちに英語を学ぶ楽しさを伝えたり、休み時間や行事等で子どもたちと交流を深めたりすることで、教員として働くことのやりがいを改めて実感することができました。また、地元でのガイドボランティア活動を通して英語を通じて故郷の良さを発信することで、より一層秋田県が掲げる“ふるさと教育”に興味を持ち、英語で話すことの楽しさを再認識することができました。

このように、学部での4年間を通して様々な経験を積むことができましたが、さらに高みを目指すために本学の教職大学院への進学を決意しました。自身の専門力を向上させるのはもちろんのこと、時代の流れに即した学習・生徒指導の在り方を学んだり、生徒が主体的に参加できるような授業を考えたりすることで、より一層教師としての自覚と責任を持ち、秋田県の英語教育を牽引できる教員になれるように有意義な2年間の大学院生活を過ごしていきたいです。

最後になりますが、ご指導をいただきました先生方、また陰で夢を支えてくれた家族や同僚に心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。また、教職を志す在学生の皆さんも心から応援しています。頑張ってください！

教育文化学部の就職支援と学生の就職状況について

キャリア委員長 林 良雄

本学部学生への就職支援については、本学部の教員で組織しているキャリア委員会と大学の学生支援・就職課とが協力して行っています。学部学生の就職先は大まかに分けて教員、公務員、一般企業となっているため、それぞれの就職について対応しているところですので、以下にその活動について説明いたします。

教員については通常の授業で学ぶ内容を十分身につけていることが最低限必要ですが、それ以上に、教員になる熱意や教員としてやっていけるか、が面接や模擬授業等で確かめられます。そのため、授業外において、次のような取り組みを行っています。

- ・スタージュ(小論文、教養、実技対策を行ったりOB・OG教員、合格した先輩に話を聞く会を開催してます)
- ・教職自主ゼミ(現在の教育課題について解説したり、面接指導を行います)
- ・オースタムキャンプ(3年生の秋にスタージュ参加者が集まり、一日かけて、教員としての心得や先輩の模擬授業を見聞きし、教員になるモチベーションを高めていきます)
- ・スプリングキャンプ(4年生の春にスタージュ参加者が集まり、一日かけて、模擬面接など教員採用試験に向かうための最終チェックと士気を高めていきます)

これらの取り組みでは、本学の教員以外にベテランの元教員の方々にもご協力をいただき、そのノウハウを伝えていただいています。

公務員については、座学での試験勉強は授業で培った知識や自学で行っていただくことになりますが、本学部では次のような取り組みを行っています。

- ・就活スタート講座(一般的な就職活動のスケジュールなどについて、紹介します)
- ・先輩と語る会(採用試験に合格した先輩の話を直接聞く機会を用意しています)
- ・面接練習(学生支援・就職課などに申し込めば面接練習ができます)

一般企業については、次のような全学の様々な支援や本学部の独自の支援を行っています。

- ・就職セミナー、業界研究セミナー(インターンシップ、就職のスケジュールや気をつける点、様々な業界を知るための説明会を大学の学生支援・就職課が中心となって、きめ細やかにを行っています)
- ・就活スタート講座(学部生に向けて、インターンシップ、就職のスケジュールや気をつける点などについての説明会をキャリア委員会が企画します)
- ・先輩と語る会(内定した先輩の話を直接聞く機会を用意しています)
- ・面接練習、エントリーシートの添削(学生支援・就職課や学部の教員が随時個別対応します)

これら多方面にわたる支援に加え、これを強力にサポート

し、また、就職活動に関する悩み事を学生に寄り添って聞いてくれる「就職情報室」が教育文化学部にはあります。ここには二人の職員が配置され、親身になっていろんな相談に乗ってくれています。就活学生のオアシスになっていると言える場所です。この就職情報室の運営費の一部は後援会費でまかなわれており、皆様には感謝申し上げます。学生たちが更に気軽に利用できる環境をつくって参りますので、お子様にも積極的に利用するよう、お話しいただけると幸いです。

さて、次に2023年度の就職状況についてご説明いたします。

まず教員ですが、秋田県では2023年度も引き続き小中学校ともに採用試験の倍率が低く、特に小学校では1.4倍となっています。また、本学部の保育士・進学者を母数から除く教員就職率も80%近くとかなり高い状況です。ただ、倍率が低いから合格するというものではありません。しっかりと教員となる意思を固め、様々な対策をしておかなければやはり合格できませんし、万が一、対策せず教員になってしまった場合には教壇に立つことが困難になってしまうこともあるだろうと思います。倍率に甘んじず、教員採用試験対策を通して教員としての資質を高めておくことが必要です。さらに、今後教員採用試験日の早期化、3年生受験の広がりもあり、2、3年での活動が重要となってきますのでご注意ください。

公務員については、地域文化学科の学生30名近くが合格していますが、2022年度と比べると10名ほど少なくなっています。要因としては企業の採用活動が活発であること、また採用活動の早期化で、早く就職を決めたいと思っている学生が多いことなどが考えられます。なお最近の公務員採用試験の傾向は面接重視となっています。1次試験がSPIと自己PR、2次試験以降面接試験で、細かい知識より、人物重視の採用試験が多くなりつつあります。例えば「政策立案のできる創造的な能力のある人」、「チャレンジ精神を持った人」などが求められ、「安定している」や「なんとなく」でなりたいたいという人はとても合格できなくなっています。

企業の内定者は地域文化学科で50名を超えて、大変好調です。採用活動は昨年度よりさらに早期化しています。4年生4月にはすでにかなりの学生が内定をもらっている状況です。更に近年の傾向はインターンシップの活用です。3年生夏にインターンシップを開催し、その出席者には先行採用枠を設けるなどのところもあります。今年の4月に4年生となる学生についてはインターンシップでの学生の情報を活用した採用が公式に認められるようになり、インターンシップ重視の傾向が強まることが予想されます。3年生の夏にインターンシップに行くためには2年生からの準備が必要となりますので、お子様にもお伝えいただければと思います。

キャリア委員会では就職環境の変化に合わせた学生支援活動を行っております。後援会の皆様にはお子様のより良い就職のために、後援会費等へのご支援賜りますようお願い申し上げます。

2月末現在

就職内定状況

学部・課程等名		卒業 予定者数	進学 予定者数	求職者数			就職内定者数			就職内定率			その他
				合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	
教育文化学部	学校教育課程	104	6	95	33	62	94	32	62	98.9%	97.0%	100.0%	3
	地域文化学科	99	6	87	31	56	82	28	54	94.3%	90.3%	96.4%	6
	小 計	203	12	182	64	118	176	60	116	96.7%	93.8%	98.3%	9
教育学研究科		9	0	7	2	5	6	1	5	85.7%	50.0%	100.0%	2
合 計		212	12	189	66	123	182	61	121	96.3%	92.4%	98.4%	11

就職情報室を利用して

教育文化学部 学校教育課程
特理数教育コース3年次 一関 宇慧

教員採用試験まで1年を切った3年生の後期、私は自分なりの勉強だけでは、不安を感じていた時期でした。そんな時に立ち寄ったのが就職情報室です。

就職情報室では、教員採用試験に関する情報はもちろん、その他多くの進路に対応した情報があり、職員の方々が学生の進路に応じて相談に乗ってくれます。また同じ進路を目指す先輩方に会った時には、経験をふまえた貴重なアドバイスを聞くこともできます。さらに職員の方々は、私たち学生の将来を真剣に考えて対応してくださる方ばかりです。もし、自分の進路に自信が持てなく、進路に向かって一步を踏み出せずにいる学生さんがいたら、ぜひ立ち寄ってみてください。きっと自分の学生生活を、充実したものにできるきっかけになるはずです。

末筆になりますが、後援会の皆様の支援により、私たちは何事にも全力で取り組み、充実した日々を送ることができています。心から感謝を申し上げます。今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。

教育文化学部 地域文化学科
地域社会コース3年次 大森 茉桜

そろそろ卒業後について真剣に考えなければならぬと思う、何かヒントを得たくて3年生の春から利用し始めたのがきっかけで、就職情報室は主に試験対策のために利用していました。就職情報室は講義のすきま時間を有効に活用できますし、なによりも心地よく利用できる快適な環境です。また、気軽に相談が出来る場所なので、就職情報室の職員のお二人とお話するだけでもかなり気分転換になりますし、思考の整理が出来ると思います。

「就職活動」「就職情報室」というと、以前はとてもお堅いイメージを持っていて、なかなか踏み出せなかったのですが、実際に利用してみるとアットホームな雰囲気です。多くの学生が訪れる場所でした。頼れる環境があること、直接関わりのない学生のみなさんも多かったのですが「就職活動を頑張る同志だ」と感じることが出来たので、それも就職活動を進め



就職情報室は、教育文化学部3号館1階にあります。学生のみならず、是非お気軽にご利用ください。

るうえでの心の支えとなったような気がします。

1,2年生の皆さんも、私のように就職活動のヒントを得たい方も、これから就職活動が本格的に始まる方も、就職情報室には学生の皆さんを支えてくれる環境があります。是非、利用してみてください。

最後に、後援会の皆様におかれましては、日頃より多くのご支援をいただき誠に感謝申し上げます。私たちは、かけがえない学生生活を充実させ、学業にも真剣に取り組んでまいりますので、今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

教育文化学部同窓会 頼れる「旭水会」の仲間たちと共に

旭水会会長 千葉 昭



令和5年3月、新装なった秋田芸術劇場ミルハス大ホールで秋田大学の卒業式が4年ぶりに全学部合同で来賓や保護者も参列して挙

行されました。参列者はすべてマスク着用でしたが、卒業された皆さんは「学位記」を手には晴れやかな笑顔で友だちと語り合っていた姿が印象的でした。

卒業式後、教育文化学部同窓会「旭水会」主催の卒業祝賀会（新入会員歓迎会）が、ANAクラウンプラザホテルで開催されたのも4年ぶりでした。

勇壮な「なまはげ太鼓」の歓迎セレモニーに続き、会食・記念撮影・恩師の大学の先生方や同窓会員との歓談・合唱等もあり、思い出に残る門出になったという声が聞かれました。

教育文化学部同窓会「旭水会」会員は現在7千人を数え、県内に10の支部と県外には東京と千葉に支部があります。皆さんもご存知の通り秋田県の小中学生は、全国学力学習調査で14年連続トップクラスの成績です。その原動力となっている教員の大多数は秋田大学教育文化学部出身の同窓の仲間たちです。また、地域文化学科の同窓生は地方創生を担い公務員・金融保険・情報通信・サービス業など幅広い分野で活躍しています。

教育文化学部同窓会「旭水会」は、大学卒業後は勿論のことが在学中も同窓会誌「旭水」の配布や学内外の体育・文化活動への助成や協賛、学生の海外留学・海外研修基金の支援や学生の生活支援のため寄付金の提供、ウクライナ留学生の生活支援等も実施しています。昨年10月に秋田大学みらい創造基金本部から長年の支援金寄付に対し感謝状を頂きました。

在学生の皆さんは教育実習や職場でのインターンシップ等で同窓の先輩との出会いも多くなると思います。同窓の仲間である「旭水会員」を大いに頼りにしてください。

教務学生委員会からのお願いとお知らせ

教務学生委員長 石井 照久

教務学生委員会は、学生のみなさんが、きちんと授業を受け、単位を取り、卒業できるようにするために、学生生活面をも含めてサポートする教員と職員（総合学務課教育文化担当）による組織です。授業運営の事務的サポートはもちろん、各学年で修得単位の少ない学生などを確認し、学生や担任、保護者などに連絡することも行っています。

秋田大学では「オンデマンド型授業」という学生が好きな時間と場所で動画などを見る形態の授業がコロナ禍を境に急に増えています。オンデマンド型授業では自由度が高く利点が多い反面、視聴しないまま・ずるずると授業を受けなくなったり、昼夜が逆転したり、見ないまま課題やテストだけを受けようとして単位をとれなかったり、などが生じる弱点もあります。教員と職員が気をつけてはいますが、学生のみなさんの生活の様子（特に一人暮らしの学生さん）について、保護者のみなさまもぜひ気にかけてください。

一方で、アフターコロナへの移行に伴い、従来から行っていた、学外に学生が飛び出して行うフィールドワークを含む授業がより活発に行えるようになってきています。そういった学生の授業成果や教員の研究成果が学部のホームページ（HP）に紹介されていますので（写真は2022年度の「地域学基礎」で学生が県内を取材し作成した、ヨーロッパ文化を味わえる情報フリーペーパー誌「welt」の表紙；詳細は学部HPをぜひご覧ください）、ときどき学部HPをチェックしてもらえるとありがたいです。

最後に令和6年度以降の新しい動きについて少し紹介します。令和6年度からの秋田大学への入学生はすべて、学部2年生から学部3年生にあがる際に、英語の得点（TOEICスコア）による進級要件が課されます。それに伴い令和6年度からの秋田大学のすべての授業は（新入生対象の授業だけでなく）、例外科目を除き英語か日英併用での授業となります。これらは秋田大学の国際化促進の一環で、学生の英語力の強化を図るものです。ぜひご理解いただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。



Z世代の就職とキャリア形成

教育文化学部長 上田 晴彦

学部長をやっていると、学生たちの就職に対する意識が私の学生時代と比較して、大きく変化していることを実感します。今の学生たちはZ世代と呼ばれる、生まれた時点でインターネットが利用可能であった最初の世代です。子どもの頃からスマートフォンを使いこなし、また生活の中に「YouTube」、「X（Twitter）」、「TikTok」などのSNSが深く入り込んでいます。このような今どきの若者、つまりデジタルコミュニケーションを得意とするZ世代の若者たちが、就職活動を経て社会で働き始める時代となりました。Z世代の学生たちは少子化による人手不足のため、上の世代のような厳しい競争を経験していません。また長く続いた低成長の時代の中で育ってきたため、頑張れば報われるという従来型のキャリア形成が描けなくなっているのも事実だと思います。チャレンジへの苦手意識が強くなっていることを心配する、保護者の方も多いと聞きます。

けれども私は、今の学生たちの良い面に目を向けたいと考えています。現在はインターネットやSNSを通じてリアルタイムで世界の情報を知ることが出来るため、多様な価値観に触れる機会が従来に比べて飛躍的に多くなりました。そのため現実を正確に見つめる姿勢に優れており、また就職に対して過剰に期待することなく、自分との相性を冷静に見極めることが出来ているように思います。「コスパ」や「タイパ」を常に意識し、賢く就職活動する術にも長けています。キャリア形成についても、目指すゴールを定めた上でチャレンジするという従来型の考え方よりも、想定外の出来事をキャリア形成に結びつけることに注意を向けるほうが、変化の激しい現代において役立つように思います。人間は結局のところ、時代にあったように進化していくものだと考えられます。Z世代である今の学生たちの可能性を信じ、この世界の未来を託してみようと思っています。

大学・学部関係行事予定（令和6年3月～）

- 3月 22日 秋田大学卒業式
- 4月 1日 前期開始
- 4月 3日 春季休業終了
- 4月 4日 在学生ガイダンス
- 4月 5日 入学式
- 4月 8日 新入生ガイダンス
- 4月 9日 前期・第1クォーター授業開始
- 6月 1日 創立記念日
- 6月 11日 第2クォーター授業開始
- 8月 9日 夏季休業開始（9月29日（日）まで）
- 9月 30日 前期終了
後期・第3クォーター授業開始
- 10月 1日 後期開始
- 11月 29日 第4クォーター授業開始
- 12月 27日 冬季休業開始（1月8日（水）まで）
- 2月 14日 春季休業開始（4月3日（木）まで）
- 3月 22日 卒業式
- 3月 31日 後期終了

秋田大学教育文化学部 後援会情報誌



令和6年3月1日発行
秋田大学教育文化学部
地域連携委員会
〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号
平成22年3月1日創刊

<http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman>